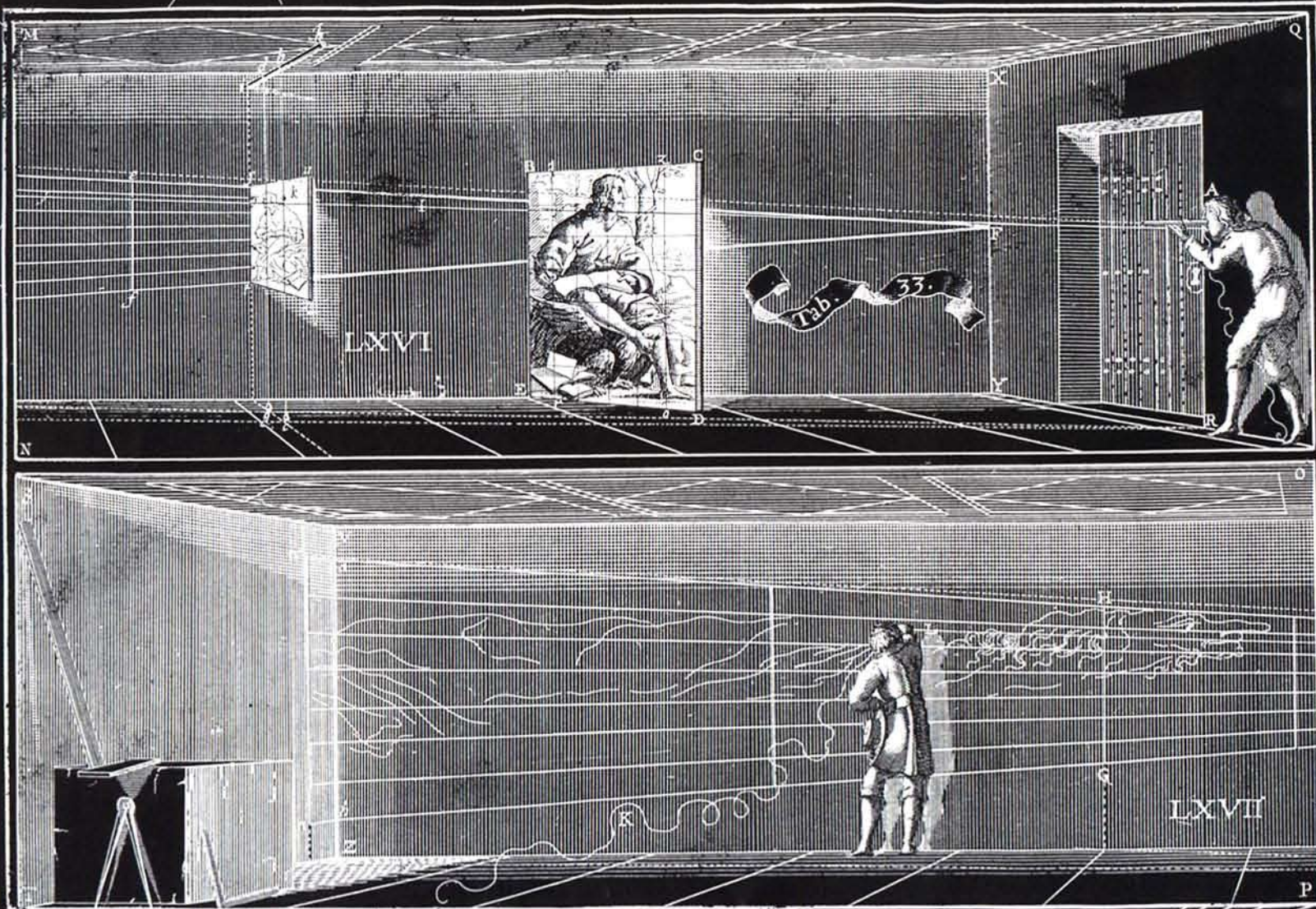


開館時間：午前10時～午後6時 ●金曜日は午後9時まで(入館は閉館の30分前) 休館日：毎週月曜日 会場：地下1階映像展示室
 観覧料：一般 大学生500円・小・中高生250円・200円 内は、20名以上の団体料金(常設展示室の観覧料を含む) 主催：東京都写真美術館



J・F・ニスロン著「奇妙な遠近法」より「バトモスの福音史家聖ヨハネ」1638年

横尾忠則 Yokoo Tadanori, 福田美蘭 Fukuda Miran, 寺門孝之 Terakado Takayuki, 猪又健志 Inomata Takeshi, クリスタ・ソムラー&ロラン・ミニョー Christa Sommerer & Laurent Mignoneau, ソーマトロフ Thaumatrope, カメラ・オブスクラ Camera Obscura, カメラ・ルチーダ Camera Lucida, ピープ・ショー Peep Show, アナモルフォーズ Anamorphosis, ワン・クリ(影絵人形) Shadow Puppets, マジック・ランタン(幻燈機) Magic Lantern, 他 当館収蔵品

東京都写真美術館
 〒153 東京都目黒区三田1-13-3 TEL.03-3280-0031
 1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153

IMAGINATION

総合開館記念展 映像工夫館展テーマ1
イマジネーションの表現

前期 錯視と視覚トリック/1995年1月21日土～5月28日

通常の視覚を歪ませ、歪曲することによって得られる不可思議な視覚装置「アナモルフォーズ」を中心に、イメージの逸脱を可能にしたたまし絵的な錯視空間を展開します

後期 幻影装置/1995年5月30日火～9月24日

光によってさまざまな画像を映し出すマジック・ランタン(幻燈機)は、そこにありえない虚の映像を現出させます。幻燈芝居「ファンタスマゴリア」を中心に、幻影装置を紹介します。



横尾忠則「地の鼓動」1994年 大型アナモルフォーズの原画



福田アナモルフォーズ 1970年代



マジック・ランタン(幻燈機)



クリスタ・ソムラー&ロラン・ミニョー「Trans Plant」
 ヴァーチャル・リアリティ 新作プロジェクト



寺門孝之「青い羽根の天使」1994年(参考図版)

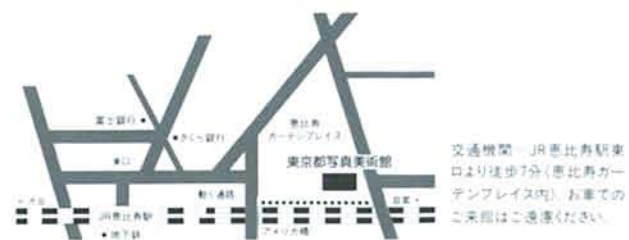


福田美蘭「MIRROR」1991年(参考図版)

フロアレクチャーのお知らせ(各回午後2時から)

第1回 1月29日日 第2回 2月5日日
 第3回 2月19日日 第4回 3月12日日
 ※以降、第2・第4日曜日に開催

「映像工夫館」では、いわゆる映画やビデオ、アニメーションといった動画だけでなく、光と影で構成される「イメージ＝映像・画像」で創造される表現や技術・工夫を展示の対象としています。視覚芸術の分野は大きな広がりを持っていますが、国内では、これまで一つの美術館が系統的にそれを扱ってゆくことはあまり試みられていません。映像工夫館では、映像文化の歴史や広がり大きなテーマに沿って紹介していきます。イマジネーションの世界、静止画から動画へ、平面から立体へ、視覚の拡大と縮小、記録としての映像など多様な切り口から歴史的コレクションや現代作品の展示を行います。「イマジネーションの表現」展では、洞窟の壁画に始まってVR(ヴァーチャル・リアリティ)へとつながる視覚への欲求をテーマにしています。人間が外界をとらえる手段の一つとしての視覚。その歴史は人間の内部にやどるイメージをどう認識し、記録し、伝達するかという知覚の歴史であったと言えるでしょう。またそこにはいかにして概念をヴィジュアルイズ(視覚化)し、造形化してゆくかという葛藤も織り込まれています。そのために人々が発明した道具がカメラ・ルチーダやステレオ・ビューワ、プラクシノスコプなどの映像装置であり、工夫を繰り返した表現の発露が映像作品として残されてきました。過去において先鋭的であった技術や作品は現在でも意味深く、逆に先端的な技術を用いて素朴な驚きを発見する作品もあります。実際に触ることのできる展示やさまざまな作品群を通して、映像史の軌跡に触れてみてください。



東京都写真美術館
 Tokyo Metropolitan Museum of Photography
 〒153 東京都目黒区三田1-13-3 TEL.03-3280-0031
 1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153